「教科に関する研究」の概要

1　研究の趣旨

新しい学力観のもとに，学ぶ側に立った学習指導（国語，社会，算数・数学，外国語（英語））に関する研究を行い，各学校での学習指導の改善・充実に役立てる。

2　研究主題

(1)　教科共通の研究主題　　「学ぶ力を育てる学習指導の在り方」

(2)　教科別研究主題と研究のねらい

教　科	教科別研究主題	研　究　の　ね　ら　い
国　語	思考力を育てる国語科学習指導の在り方	説明文，評論文の指導において，児童生徒が自ら進んで学習課題にかかわり，学習課題について考える主体的な学習活動を通して，思考力を育てる国語科学習指導の在り方を究明する。
社　会	自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方	学ぶ力を育てる上での学習指導上の諸問題をとらえ，自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方を究明する。
算　数・数　学	数学的に考える力を育てる算数・数学科学習指導の在り方	児童生徒の学ぶ力である思考力，表現力，判断力を数学的に考える力としてとらえ，校種ごとに数学的に考える力を育てる算数・数学科学習指導の在り方を究明する。
外国語（英語）	表現力を育てるスピーキング指導の在り方	「話すこと」の言語活動の実態を踏まえ，生徒一人一人を生かしながら，表現力を育てるスピーキング指導の在り方を究明する。

3　研究主題についての基本的な考え方

この研究は，平成４年度からの継続研究であり，研究を進めるに当たって，学力を以下のようにとらえた。まず，学力は次の三つの要素から構成される。

学力
- 学ぼうとする力 -- 対象への興味・関心，意欲，自己実現の態度
- 学ぶ力 -------- 学び方，調べ方，考え方，判断の仕方，表現の仕方
- 学んだ力 ------- 知識・理解，技能，学んだ自信

次に，これら三つの要素の関連について，学ぼうとする力が学ぶ力を高め，学ぶ力が学んだ力を高め，さらに学んだ力が学ぼうとする力を高めるというように，切り離された別個のものではなく，相互に影響し合うものであるとした。同時に，学んだ力は学ぼうとする力や学ぶ力に裏付けられたものでなければならず，また，学ぶ中で学ぼうとする力や学ぶ力が育っていくことが重要である。学力をこのようにとらえることによって，学習の中で，心豊かにたくましく生きる人間を育てることができると考えた。

そして，従来の教育については，知識偏重の風潮の中で，最も見えやすく，ペーパーテスト等で評価しやすい学力の面だけを，学ぼうとする力や学ぶ力から切り離して学力としてとらえる傾向があった。しかし，現在求められている知識は，児童生徒の興味・関心や意欲に基づいて獲得された知識，体験に裏付けされた知識，深い思考力，判断力に裏付けされた知識であり，新たな学習や生活の中でも生きて働く知識であるとした。

平成４・５年度は，「学ぼうとする力」に焦点を当てて研究を進めた。平成６・７年度の研究は，その研究を踏まえ，「学ぶ力」に焦点を当てて研究を進めてきた。今回の研究を進めるに当たっては，学力の構成要素の一部に修正を加えた。

修正した点は，学力についての「学んだ力」を「学んで得た力」，学ぼうとする力の「自己実現の態度」を「自己実現への態度」，学んだ力の「学んだ自信」を「学んだ結果としての自信」としたことである。すなわち，以下のとおりである。

学力
- 学ぼうとする力 -- 対象への興味・関心，意欲，自己実現への態度
- 学ぶ力 -------- 学び方，調べ方，考え方，判断の仕方，表現の仕方
- 学んで得た力 --- 知識・理解，技能，学んだ結果としての自信

この三つの力は，それぞれが固有の意義をもち，相互に関連し合い，影響し合うことによって生きて働く力へと導かれる。それは，新しい教育観が重視している学力のとらえ方の根幹を成すものである。

「学ぶ力」については，「学ぶ能力としての思考力，判断力，表現力，評価力等と学ぶ方法としての読み取り方，観察の方法，調査の方法，実験の方法等の２側面から構成される力である。」と位置付け，１時間１時間の授業の指導の積み重ねを通して，次第に形成されて生きて働く力になると考えた。

4　研究方法及び研究の経過

(1)　平成６年度の研究

ア　研究協力員の委嘱

４月に研究協力員総数24人を次のように委嘱する。

- 国語　小学校２人，中学校２人，高等学校２人　計６人
- 社会　小学校２人，中学校２人，高等学校４人　計８人
- 算数・数学　小学校２人，中学校２人，高等学校２人　計６人
- 外国語（英語）　中学校２人，高等学校２人　計４人

イ　研究主題にかかわる理論研究

５月に大学の教授による講義を受ける。研究協力員，教科教育第一課員の参加の中，新しい学力観に基づく「学ぶ力」について理解を深める。

ウ　学習指導の実態と問題点を探るための意識・実態調査

意識・実態調査は，研究協力員の所属する学校等の児童生徒及び教師を対象として行った。主な調査事項は次のとおりである。

- 楽しいと感じる授業について
- 児童生徒が難しいと感じる学習について
- 思考力を育てる実践について
- 自ら考え，判断する力に関すること
- 学習問題に関すること
- 学習課題の取り組みに関すること
- 学習活動に関すること
- 問題解決学習の取り組みについて
- やる気のでる授業について
- 学習を楽しくするための活動について

意識・実態調査から，次の興味深い結果を得ることができた。

- 児童生徒の学習についての意識と教師の指導上の意識とが必ずしも一致しないこと。
- 児童生徒の学習についての意識や教師の指導上の意識が小・中・高等学校の段階によって違っていること。

エ　授業研究

授業研究は，10～11月にかけて各教科，小・中・高等学校各１校で実施した。社会科の高等学校については，２校で行った。

オ　中間報告

平成７年３月25日，本研修センターの研究発表会で発表した。各教科それぞれの単元において次の成果を収めることができた。

(ア)　国語

- 「虫のゆりかご」（小）　説明文の読みを深めるために書く活動を重視したこと。
- 「犬に名前のない社会」（中）　読み進める三つの方法を選択して学習したこと。
- 「花火」（高）　説明文の読みにおいて対比表現に着目したこと。

(イ)　社会

- 「私たちの県のようす」（小）　千葉県の小学校からの手紙を学習のきっかけにして進めたこと。
- 「室町時代」（中）　間口の狭い仮の課題から真の課題へ進めたこと。
- 「現代の労働条件」（高）　10社の求人票を活用したこと。
- 「アジア諸国の工業化と経済発展」（高）　身近なアジア製品を調べたこと。

(ウ)　算数・数学

- 「正多角形と円」（小）　円に内接する正多角形と外接する正方形を利用して，課題意識から問題意識へ進めたこと。
- 「量の変化と比例」（中）　比較検討の場で妥当性，関連性・有効性，解決方法の検討をしたこと。事前テストと事後テストの実施。
- 「場合の数」（高）　生徒自ら考える学習課題を工夫したこと。

(エ)　外国語（英語）

- 「The Home Planet」（中）　スキットを作成して，テレビ・ショーを実施したこと。
- 「Expressive Speeches」（高）　自由なテーマでの英文作成とスピーチをして，評価させたこと。

(2)　平成７年度の研究

ア　理論研究

５月に，理論を深めるために大学の教授より講義を受けた。

イ　研究協議

研究協議会は，３回にわたって理論に基づく指導案の作成及び授業研究後の分析を行った。

ウ　授業研究

授業研究は，９～10月にかけて各教科，小・中・高等学校各１校で実施した。社会科の高等学校については，２校で行った。

学ぶ力を育てる手立てを次のように考えた。主なものは次のとおりである。

- 児童生徒一人一人の考えを自由に表現できる基盤としての温かい人間関係づくりをする。
- 体験的な学習活動を通して問題発見の場づくりをする。
- 個に応じた操作活動を工夫する。
- 学習過程での児童生徒の役割づくりをし，所属感をもたせる。